

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスにしっ子		
○保護者評価実施期間	2025年1月20日		2025年2月5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	2025年1月20日		2025年2月5日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	一人一人の状況にあった療育空間を確保し、遊びを通じた成長を大切にしていること	私たちは遊びや生活の中で多くのことを学べると考え、遊びを大切にしている。当施設は放課後児童施設として単独の建物で屋外に遊び場を持っており、周囲の理解もあり、外遊びを十分に行える。ただ屋内においては静かな環境を求める子どもたちに対して十分な保障をできてるとはいえない。そこで静と動の空間区分を可能にする取り組みを施設の拡充を含め現在行っている。	新年度より拡充した施設の中で静の空間と動の空間の区分を明確にする。子どもたちの特性に合わせた空間設計を試みる。

2	保護者の意見・職員の提案を把握し、業務や療育に反映できる風通しの良い環境を整備すること	連絡帳や送迎の際の対面による情報伝達によって保護者との意志疎通を図っている。また、個別の相談や支援計画の説明にも力を入れている。職員と保護者、また保護者間のつながりを求めて保護者会を定期的に行っている。職員間では毎日の情報伝達や意見交換を行っている。毎週行われる職員会議（パート職員を含め）では諸課題に対する職員全体の合意を大切にしている。	保護者会やイベント等を活用しながら保護者間のつながりも強めていく。
3	支援計画に基づく活動プログラムに多くの職員がかかわっている	活動プログラムについては日々の状況を把握し、最も効果的な支援を職員間で検討している。一律の対応ではなく、複数の目で子どもを見守りながら療育を行う。それを可能にするためには職員の力量が必要であり、定期的な研修の場を設定している。	専門的な学びが職員に求められており、既存の研修会以外にも独自の研修の場を設ける。また、職員間で支援計画の周知も十分に行えるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	静と動の空間の区分と確保	面積的な基準は守られていてもそれぞれの特性に合わせた空間を確保しようとすればそれでは十分ではない。特に静かな環境を求める子どもに対する場を確保できない。	新年度までに施設を拡充することで、静の空間を保障する。部屋の仕切りの仕方、子どもの動線などに工夫し、静・動の両立を図る。
2	非常時の対応に関する周知	年度初めの保護者会で年間計画をはじめ非常時の対応について保護者への周知を図っているが、避難訓練の予告や結果の周知は十分ではなかった。	避難計画については年に1度、保護者に伝達していたが、回数を増やし、保護者会などでこまめに連絡するようにする。毎月の通信で避難訓練の実施を周知しているが、必要と判断できれば、避難訓練の状況など保護者にお便りとして報告する。実施日程も多くの子どもの子どもたちが経験できるように配慮する。

3	地域との連携	発足時がコロナ禍で施設発足の地域への周知が遅れた。この間地域に開かれた子育て講演会を2度開催するなど努力を行っている。ただ、現状で外部評価を行う第三者委員会を開催できていない。外部からの意見を聞くシステムは十分ではない。	引き続き、地域に開かれた子育て講演会を開催する。第三者委員会を開催する。地域との災害時に避難所となる施設との連携を含め、計画を共有するなど地域との連携を模索する。
---	--------	--	---